

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー ソラリス	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	中学生
オプション		年齢	15	性別	女
覚醒	犠牲	衝動	加虐	初期侵食率	31 %
出自	有名人	経験	UGNへの畏怖	邂逅	同一異義

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	0	0			1	行動値	15
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	15
精神	2	1	0	3		6	戦闘移動	20
社会	3	0	0			3	全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	6		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:型抜き	1		知識:			情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ブラディダスト	RC	9r+6				18+1D10+2D10 侵蝕9
ディストラクトブラスト	RC	10r+6				36+1D10+5D10 侵蝕13

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:手配師	
情報収集チーム	
ウェポンケース	
増血剤	

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス消費
破壊者	P	N	
クストシープ(YR)	P 親近感	N 嫌悪	
八月一日 帯人	P 連帯感	N 不安	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P:	8	残り財産P:	4
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
増加生産	5	3	セット	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間判定ダイス+[LV]							
コンセ:ブラム=ストーカー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-[LV] (下限7)							
ブラッドスパイク	3	3	メジャー	至近	範囲(せんたく)	対決	-	
効果:	攻撃力+[LV*3]、HP3消費、1回/ラウンド							
ブラッドボム	3	1	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	HPダメージ後更にHP-[LV-1]D10、HP-減らした数							
増加の触媒	3	3	メジャー	-	-	-	-	
効果:	攻撃力+[LV*3]							
オーバードーズ	1	4	メジャー	-	-	-	100	
効果:	組み合わせたエフェクトLV+2、[LV]回/シナリオ							
快樂の香気	★	-	メジャー	至近	参照	自動	-	
効果:	快樂物質を散布する							
超越的能力	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	イージーエフェクトの効果を強力にする							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

センスの塊であることを期待されながら生まれた少女。幼少にその神童たる才覚を発揮し、将来は父親のようなスポーツ選手か、はたまた母親のような音楽家か、と言われたものであったが、今の彼女はどちらにもなれはしないことを理解している。

彼女の将来がどちらも選べなくなったのは、10年前に起こった自動車の事故によるものだった。忙しい両親が奇跡的に揃って休暇を取れたことで実現した、初めての家族旅行、その移動中での出来事。父親の運転する車が事故を起こし、車は大破、爆発炎上、当然車両前方に乗っていた両親は助かるはずもなかった。運転に非があったのか、車自体に非があったのか、路面に非があったのか、天候に非があったのか、それとも後部座席に座っていた彼女に非があったのか、それは今となっては分からない。なぜならこれを目撃した人間はいないし、最先着したUGNの人間も還らぬ存在となっているからである。覚醒の衝動で何が起こったかは置いておいて、ともかく彼女はここで覚醒し、UGNに引き取られる。

この事故は、ただの不幸な事故として世間的に片付けられた。救助にきた多数の人間の命が失われたことは、表に出ることなく片付けられた。幼かった頃にはどういことが起こっていたのか知るよしもなかったが、今は理解している。自分の終わりも同様に扱われるのだろうかということも。だからこそUGNに完全に忠誠を抱くことはできない。しかしここを仮に出たとして、どこに行っても、どう生きたいのかわからない。だから逃げることはしない。

殺した命の数は、数知れない。彼女は父親のようにも、母親のようにも、なる気はない。この血に塗れた手で、優勝の杯を受け取れるわけも、心を震わせる音楽を奏でられるわけも、ないのだから。

破壊の才能、覚醒の事情、両親の知名度、等の彼女を取り巻く様々な要因が、周囲より一歩大人びた子供という彼女作り上げた。そのため学校でも組織でも浮いてしまっており、友人は多くはない。好きなものは褒められること、人が喜ぶ顔。